

山川海の流域連携について

趣 旨

- 平成 26 年 5 月 14 日に開催された第 12 回市民企画会議においてごみ・流木、土砂、木づかいについては、流域連携のテーマとし、具体的に検討方針、主務担当者やアウトプットを考えていくことで了承された。
- その後、山・川・海の地域部会WGにおいて、各担当者の選出を行った。

1. ごみ・流木

【山部会】豊田市矢作川研究所 洲崎主任研究員、奥矢作森林塾 大島理事長

【川部会】愛知工業大学工学部都市環境学科 内田教授

【海部会】伊勢・三河湾流域ネットワーク 井上共同代表世話人

2. 土砂

【山部会】東京大学 大学院農学生命科学研究科 附属演習林 生態水文学研究所 蔵治所長

【川部会】矢作川漁業協同組合（予定）

【海部会】大阪大学大学院工学研究科 青木教授

（名城大学大学院総合学術研究科 鈴木特任教授）

3. 木づかい

【山部会】根羽村森林組合 今村参事

【川部会】豊田市自然愛護協会 光岡会長

【海部会】東幡豆漁業協同組合 石川組合長

4. その他、流域連携へのご意見

【山部会】

- ・山村再生担い手事例集の作成について、川・海部会のメンバーと連携したい。

【川部会】

- ・流域を流れていくものとして、水と物質と土砂と人の意識が考えられる。水量、水質の問題はあるが、切実な問題として挙がっていないのであれば、その3つのテーマでよい。
- ・矢作川は水量が少ないことで有名で、それによる弊害は多いと思う。山の植生がどうなると涵養量が多くなるか。また、海側へは、干潟環境、ヨシ原環境について、海と連携して考えていく必要がある。

【海部会】

- ・漁業者との交流については、海部会単独で行うのではなく、懇談会全体で広く位置づけたい。
- ・連携についての会議は、改めて設けるのではなく、全体で集まるときに時間を設けて実施してほしい。

以上